

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3894000045
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホーム わたしの青空
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町城辺乙696番10
自己評価作成日	平成24年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人一人の個性や生活のペースを大切にしたい『個を重んじるケア』を心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●地域の小学校の特別支援学級の子も達が、ダンスを披露してくれた際には、利用者も一緒になって手拍子して楽しい時間を過ごされ、後日、子ども達から、「握手したとき、とてもいい気持ちになりました」「また三学期に行きたいです」等と書かれたお手紙が届いた。団地の子も達が来た時には、絵を描いたり、歌を歌ったり、あやとり等もして一緒に遊んでおられる。</p> <p>●居室には、ダンス、テレビ、鏡台等、ご本人の使い慣れたものを持ち込んでおられる。仏壇を置いている方もみられた。事業所から利用者へ贈った日頃の家事への感謝状を飾っておられたり、ご家族からの絵はがきや写真も飾られていた。ベットには、職員を呼ぶ際に使用する鈴を付けている方もみられた。居室入口には、利用者のご家族のことを度々思い出せるよう、一緒に撮った写真を飾っておられる。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム わたしの青空

(ユニット名) 東通り

記入者(管理者)

氏名 荒谷 留里

評価完了日 平成24年 2月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) リビング内に理念を掲示し、日々の実践に活かすように心がけている。	
			(外部評価) 「ゆったりとした自由な暮らし、穏やかで安らぎある暮らし、自分でやれる喜びと達成感のある暮らし、自分らしさや誇りを大切にされる暮らし、地域住民の一人であるという実感ある暮らし」を事業所理念に掲げて、職員会議時には、日々、理念に沿ったケアが実践できているかということをお話し合っておられる。法人代表者は、「わたしの青空通信」にて、「理念にもとづき、利用者の皆さんへのお約束をきっちり果たせるように、日々頑張っています」とあいさつされている。管理者は、日々の中で職員とともに「利用者が一番。利用者が良くなるためにどうすればいいのか」ということを考えながら取り組んでおられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学校の特別支援学級の子どもたちが、学期ごとに歌や劇を見せにきてくれるようになった。 休日は、近くの団地の子どもたちが遊びにきてくれることもある。	
			(外部評価) 地域の小学校の特別支援学級の子ども達が、ダンスを披露してくれた際には、利用者も一緒になって手拍子して楽しい時間を過ごされ、後日、子ども達から、「握手したとき、とてもいい気持ちになりました」「また三学期に行きたいです」等と書かれたお手紙が届いた。団地の子ども達が来た時には、絵を描いたり、歌を歌ったり、あやとり等もして一緒に遊んでおられる。又、地域のお祭りには「からしし」が来てくれた。地域の方達とも少しずつかかわることも増え、近所の方から「お年寄りの人が一人で歩いておられますが、利用者さんではないですか？」と、教えていただくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 取り組めていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事故報告や、職員研修の内容等を積極的に開示していることで、会議メンバーから信頼を得るとともに、理解や協力の深まりが得られるようになった。	
			(外部評価) 運営推進会議は、ご家族や地域の方が参加しやすいように、夜7時から開催されている。すべてのご家族に会議の案内を出し、多くの方が参加してくださっている。2つの地区の区長、民生委員、近所の方にも案内を出し参加いただいている。毎回、少量であるが、利用者に好評な食事やおやつを試食コーナーを設けて、意見を聞くようにされており、「いりこを粉末にして使用してはどうか」「たこ焼きの粉よりホットケーキの粉が合うのではないか」等の意見も出してもらって参考にされている。スライドを使って利用者の日々の暮らしぶりをより具体的に紹介されたり、事例紹介や職員研修、外部評価についても報告されている。団地の区長より「夜間、事業所までの道が暗いので街灯があれば安心」と意見があり、2ヶ所に電灯を設置された。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で事業所の実情やサービスの取組みを伝えたり、必要に応じて相談をしたりするなど、協力関係を築くようにしている。	
			(外部評価) 生活保護受給者の生活支援について等、対応が困難な事例もあり、町の担当者の方に相談されたり、民生委員の協力を得る等して、連携を密に取り組まれている。又、町の担当者の方や民生委員の方は、運営推進会議時に、毎回、参加してくださり、事業所の取組みを知ってもらったり、意見を出してくださっている。町内のグループホームの管理者達で、情報交換を行うために自主的に集まる機会を作っておられ、今後は、「町の担当者にも参加いただけるよう働きかけていきたい」と話しておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 『身体拘束などの排除の理念及び方針』を定めており、職員研修等を通じ、身体拘束をしないケアについての認識を全職員の共通理解とするように努めている。	
			(外部評価) 「身体拘束の排除の理念、及び方針」に「ご利用者を中心としたケアを提供し、ご利用者の尊厳を守るケアを提供します」と掲げておられる。これまでに、利用者がひとりで外に出て行かれたことがあり、そのようなことをきっかけに、職員で話し合い、玄関のセンサーは、開閉式から近付くと音が鳴る感知センサーに取り替えられ、「音が鳴ったら職員は、必ず玄関の様子を確認する」ことの徹底を図られた。ユニット間の扉には、パイプチャイムを付けて、扉の開閉時には音が鳴り、職員が分かるようになっている。「言葉による拘束ではないか」と感じた時には、その時その場で職員同士で話し合い、拘束をしないケアの実践に取り組んでおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員研修をとおして、全職員の虐待防止に対する意識の高揚に努めており、虐待防止の徹底を期している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解と活用について、全職員が理解できるところまでの学習機会は確保できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分に時間をとって説明し、利用者・家族の不安や疑問点を尋ね、納得をしていただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や面会時に意見・要望を聞き出すように努めている。	
			(外部評価) 「わたしの青空通信」を毎月発行されて、利用者の日々の暮らしの様子や法人代表者のつぶやき、毎月の献立予定表も載せておられ、又、最後のページには、「〇〇さんだけのページ」を作り、利用者個別に、写真と担当職員からメッセージを書いておられる。さらに、管理者の写真と、「ご心配なことやお気づきの点がございましたら、ご遠慮なくお申し出てください」と、メッセージを添えておられる。運営推進会議時に、ご家族からは、「ホームで困っていることがあれば言ってください。草ひきのお手伝いしますよ」と、声をかけてもらっている。ご家族がお誕生会に踊りを見せてくださったり、そうめん流しのお手伝いをしてくださっている。手作りの醤油餅を届けてくださり、利用者のおやつに好評で、後日、利用者と一緒に作り方を教えていただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			職員会議時に意見を聴く機会を設けている。また、適時意識調査アンケートを実施して職員の考えを運営に反映させるように努めている。	
			(外部評価)	
			事業所では「認知症ケア知識：初級検定」を取り入れ、職員は認知症について毎月勉強しておられる。職員は「日々のケアで役立っています。利用者を理解できるようになりました」と話されていた。職員会時に、ミキサー食のおかずの工夫を話し合ったり、介護度重度の利用者の方が話しをしてくださる時には、職員がゆっくりとお話を聞けるように、自然に他の職員がフォローしてくれている。職員は、相談ごとや分からないようなことがあれば、法人代表者や管理者に相談しながら取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			勤務考課制度を導入している。 産業カウンセラーとメンタルヘルス業務契約を結び、職員が電話及び面接によるカウンセリングを受けられるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			定期的な取り組みはできていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前に訪問面接し不安なことや、要望を聞き、安心していただけるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に事業所内の見学に来ていただき、不安なことや要望を聞き安心していただけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族等と必要としていることをよく話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 事業所の『理念』の中に、このことを掲げ、職員と利用者とは「介護する側・される側」ではなく、「生活のパートナー」であるとする捉え方を徹底させるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との情報交換を行いながら一緒に支援させていただいているという思いを伝えるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 身内以外の方が来訪されても、また次に来やすい雰囲気をつくるように心がけている。 (外部評価) 長年のお友達がお弁当持参で会いに来てくださり、居室で事業所の食事と持参のお弁当を交換しながら食べられるようだ。ご自宅のある地域のお祭りには、外出や外泊する方もいる。夫婦で別々の介護事業所を利用されている方は、身内の方の家で会えるように計画されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係情報を職員間で共有し、楽しく穏やかに過ごせるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も利用者家族が気軽に立ち寄ってくださっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中での会話や行動から意向をくみ取ったり、尋ねたりして把握するように努めている。	
			(外部評価) 意思表示が困難な利用者の場合は、仕草や表情等からご本人の思いや意向を探るように努力されている。フェースシートは、介護認定の更新時に見直しを行っておられ、アセスメントシートは、状態変化時にその都度変更されている。職員は、利用者が話しをされる時には、「今しか聞けないこともある」という思いで、ゆっくりと利用者のお話を聞くようにされている。「体操がしたい」「歩けるようになりたい」「時々、奥さんに会いたい」等、希望が聞かれた時には支援できるように職員で話し合われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から情報を得て、職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日介護記録や健康状態の記録をつけて職員間で情報を共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			面会時に家族の意向をお聞きし、カンファレンス時に利用者の変化や家族の意向を踏まえて話し合い、介護計画作成に反映させている。	
			(外部評価)	
			介護計画を介護記録に綴じて、職員が日々照らし合わせながらケアできるようにされている。日々の介護記録は、職員の勤務に合わせて、「夜勤、早出、日勤、遅出」と項目を作って、記録した職員名を記入し、詳細が知りたい時にはその職員に聞くようにされている。計画は、3ヶ月～6ヶ月毎に見直しておられ、状態の変化時や計画に盛り込み支援したい内容ができた時には、その都度見直すようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護記録や介護日誌に毎日の様子を記入し、職員間で情報を共有している。カンファレンス時にはこういったものを踏まえて、介護計画を見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			そこまでの取り組みはない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			そこまでの取り組みはない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診は、本人及び家族の意向を最大限尊重しており、かかりつけ医への連絡はこまめに行っている。	
			(外部評価) 介護度が重度の利用者も複数おられ、協力病院がかかりつけ医の利用者は往診を受けておられる。受診の際には、主に管理者と看護師が同行されている。眼科や皮膚科を受診する際は、ご家族が付き添っておられ、ご家族の都合がつかないような時には職員が同行されている。歯科は、訪問診療を利用されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 気づいたことは職場内の看護師資格のある介護職員に報告・相談を行い、健康管理に留意している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は介護現場からの情報を提供している。退院時も関係者と連絡・相談を行い、家族が安心できるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状態により、医師から家族に説明していただき、医師と家族とグループホームで十分に話し合いをしたうえで取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者が、「ご自分の希望を示せる時に、希望を聞き取る」ことに取り組まれている。現在、2名が、事業所で最期まで過ごすことを希望されており、運営推進会議時にも、看取り支援について話し合い、事業所では、主たる介護者だけでなく、ご本人の兄弟姉妹等、利用者にかかわるご家族の同意を得て、取り組みたいと考えておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練は実施できていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練計画はあるが、十分に実施できていない。地域との協力体制は築けていない。	管理者は、実際に利用者を避難させる訓練を実施したいと考えておられる。又、地域との協力体制についても、今後、隣接する3軒のお宅や団地の方達に、いざという時の協力をお願いしたり、又、「事業所を地域の方達の避難場所として事業所を利用してもらえるよう伝えていきたい」と話しておられた。さらに、地域の避難訓練に参加される等、地域との協力体制作りについても取り組みをすすめていかれてほしい。実際に訓練を行い、課題を明らかにして、利用者職員の安全安心に向け、取り組みを重ねていかれてほしい。
			(外部評価) スプリンクラーを設置されており、緊急時に緊急車両が入りやすいように事業所入口の門扉を撤去された。火災を想定して職員に出火元を伝え、「どのように行動するか」ということを話し合われたことはあるようだが、避難訓練を実施するまでには至っていない。昨年の東日本大震災時には、事業所でも排泄用品の入手が困難であったという経験もあり、災害に備えて備蓄しておくものについても、検討しているところである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者に合った話し方・なじみの言葉・敬語を使い分けながら、利用者の尊厳を傷つけないように配慮している。	職員の利用者への対応や言葉かけについては、配慮が必要と感じるような場面も見受けられる。時々、理念に立ち戻り、利用者の立場から、日々の職員のかかわりを点検する機会を作ってはどうか。新人職員はじめ、すべての職員がスキルアップできるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。又、共用部分にある排泄用品等の整理についても、配慮されてはどうか。
			(外部評価) 管理者は、事業所見学の受け入れ時には、居室入口にある写真や名札を外すようにされており、そのような取り組みを運営推進会議時に報告された際には、町の担当者から、「プライバシーの保護が行き届いていますね」と感想をいただいた。利用者ご本人が、「昔から呼ばれている呼び方で呼んでほしい」と希望された場合は、希望に添う呼び方をされている。管理者は、日頃から職員に「きつい言葉かけはしない」と話をしておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自分の思いや希望を伝えられるような声かけや対応を行うように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、自由にゆったりと過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望に応じて訪問美容を利用しカットやパーマを行い、快適に過ごしていただけるようにしている。女性利用者にお化粧・マニキュアを希望に応じて行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り、利用者に材料切りや配膳・後片付けを職員と一緒に行っていただくようにしている。	利用者一人ひとりについて「食事を楽しむ」という観点から食事の支援について、工夫できることはないか話し合われてみてはどうだろうか。利用者の家庭の味や習慣、好みや季節感や郷土料理等、利用者との会話等も工夫して聞き取ってみられたり、食事に採り入れられるよう取り組まれてはどうだろうか。さらに、現在は介護度が重度の利用者は居室で食事するよう支援されているが、利用者の暮らしの希望やグループホームの意義、食事支援の目的等も踏まえて支援について、利用者本位のケアとなっているか話し合ってみる機会にされてはどうだろうか。
			(外部評価) 食事は、業者からの決まった献立の食材が届くようになっており、食事の準備は調理専門の職員が担当されている。利用者が好まないような献立の場合は、カレーやお寿司等に変更されている。畑で採れた野菜やいただき物がある場合には、朝食に使用しておられる。アレルギーのある方への配慮やミキサー食、きざみ食、トロミをつける等、一人ひとりに合わせ調理されている。調査訪問時、職員は、利用者に献立を説明しながら「良く噛んで下さいね」「ごっくんしてくださいね」と、一つひとつ声をかけながら介助されていた。職員は、「おいしく食事ができるように」座った際の姿勢にも気を付けて食事介助をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量・水分量を利用者ごとに確認している。食事形態は利用者、あるいはその日の体調によって異なる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを実施している。うがいができない方にはスポンジブラシを使用するなどして、口腔清拭を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は可能な限り、見守りや定期的な声かけを行い、トイレで排泄していただいている。	
			(外部評価) 排泄記録にて一人ひとりの排泄リズムを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行っておられる。トイレでの排泄を支援することで、パットの使用量が減った利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分量に気をつけ、適度な食物繊維摂取と好みに応じて乳製品を取り入れたりしている。毎朝体操をして、体を動かすようにしている。どうしても便通のない時は医師に相談し薬を服用している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できるようになっており、利用者一人一人の状況に応じた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 毎日午後に入浴の準備をされており、毎日入浴する利用者や2日に1回入る方もいる。入浴を嫌がる利用者には「温泉に行きましょう」「一番風呂に行きませんか」等、声かけして事業所での入浴につなげておられる。浴室には浴槽に入りやすい椅子を置き、又、時計を置いておられ、利用者が湯疲れしないよう、職員は時計をみながら声をかけたり、ご自分が時計をみながら入浴される方もいる。介護度が重度の利用者も浴槽で温まれるように、男性職員が抱きかかえて入浴介助をされる場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆったりと自由に自分の時間を過ごしていただいている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書は個別のロッカーに保管し、薬の内容についていつでも確認することができる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の意欲の程度に配慮しながら支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外泊・外出は家族の協力を得ながら、いつでもできるようにしている。	
			(外部評価) 季節の花を楽しみに出かけられている。コスモスを見に出かけた際には、ちょうど保育園児と出会い、利用者の楽しいひとときとなったようだ。時には、庭に出て日向ぼっこされたり、庭に造っておられる模擬喫茶店で、好きな飲み物やケーキを注文してお茶を楽しんでおられ、介護度が重度の利用者も参加されている。スーパーにお好きなおやつを買いに行かれる方もいるが、重度化に伴い、外出が難しい方や「行きたくない」と言われる利用者も増えて来ているようである。	職員は、「春になれば、散歩や外出に取り組んでいきたい」と話しておられた。利用者の状態にも配慮しながら、外に出るような機会を増やしていかれてほしい。ご家族とも相談しながら、利用者個々の懐かしい場所や思い出の場所等にも出かけてみるような機会も作っていかれてはどうだろうか。利用者の地域での暮らしを拓けていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者家族と相談の上で対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自由にしていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 各居室・リビング・脱衣室に温度計を取り付けており、室温調節を細めに行うことを心掛けている。 利用者の居室の入り口ののれんには、職員と利用者が作った季節に合った折り紙がかざってある。</p> <p>(外部評価) 玄関入口にはパンジー等の鉢植えを置き、ボードには、調査員を歓迎して下さる言葉や運営推進会議の予定等が手書きされていた。玄関内には「わたしの青空」通信を掲示されていた。居間は広くゆったりとした造りになっており、天窓から自然の光が入り明るい。「春よこい」の歌詞がとりのこ用紙に大きく書かれてあり、調査訪問時には、みなで歌っておられたり、畳のコーナーでは、利用者が洗濯物をたたんでおられる様子もみられた。食卓の椅子は、以前、利用されていた方のご家族が肘かけを作ってくださっており、利用者は安定した姿勢で食事できるようになっていた。利用者がソファや椅子に座ると、職員が膝かけをかけておられた。ご家族からは「事業所の庭は、湿地が多く水を好む花や木を植えると良い」とアドバイスもいただいた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングにソファを置いており、畳のスペースもある。 一人一人が思い思いに過ごせ、気の合う者同士で座ることができるよう配慮している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心できる空間をつくるように努めている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ダンス、テレビ、鏡台等、ご本人の使い慣れたものを持ち込んでおられる。仏壇を置いている方もみられた。事業所から利用者へ贈った日頃の家事への感謝状を飾っておられたり、ご家族からの絵はがきや写真も飾られていた。ベットには、職員を呼ぶ際に使用する鈴を付けている方もみられた。ご家族の来訪時には、居室でゆっくり話してもらえらるるよう事業所で椅子を用意されるが、ご家族の中には専用の椅子を居室に常備されている方もいる。居室入口には、利用者のご家族のことを度々思い出せるよう、一緒に撮った写真を飾っておられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 『できること』『わかること』の領域がせばまらないように、事業所としてできる工夫や配慮を常に模索している。</p>	